

対象校No. 526

注4

学校コード F11310103386

注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

届出

注2

二松学舎大学 文学部 歴史文化学科

【届出】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

学校法人二松学舎
令和8年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 大学改革・IR推進課

職名・氏名 カチョウ オザワ ヒロユキ
課長・小沢 洋之

電話番号 03-3261-1285

(夜間) 同 上

e-mail gakumu@ni-shogakusha-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(令和◇◇年度より学科名称変更))

表題は以下の例を参考に記入してください。

例)

- ・「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・「〇〇短期大学 △△学科」
- ・「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(〇〇課程)」
- ・「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

4 対象校No.については、「【別紙】令和8年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人二松学舎

(2) 大学名

二松学舎大学

(3) 調査対象大学等の位置

<九段キャンパス>

〒102-8336

東京都千代田区三番町6-16

<柏キャンパス>

〒277-8585

千葉県柏市大井2590

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ミト ヒデノリ) 水戸 英則 (平成23年9月)		
学長	(イトウ シゲヒロ) 江藤 茂博 (平成31年4月)	(ナカヤマ マサヨシ) 中山 政義 (ノボタ シノブ) 佐藤 晋 (令和6年4月)	任期満了に伴う新規選出 令和5年4月1日(5) 前任者辞任に伴う新規選出 令和6年4月1日(6)
学部長	(ノボタ ヒロシ) 瀧田 浩 (令和3年4月)	(イトウ シゲヒロ) 江藤 茂博 (ノボタ シノブ) 五月女 肇志 (令和7年4月)	任期満了に伴う新規選出 令和5年4月1日(5) 任期満了に伴う新規選出 令和7年4月1日(7)
学科長等	学科主任(コヤマ サトコ) 小山 聡子 (令和4年4月)	学科主任(ノボタ シノブ) 野村 啓介 (ノボタ シノブ) (ナカガワ カズ) 中川 桂 (令和7年4月)	前任者の学内役職就任による辞任に伴う新規選出 令和6年4月1日(6) 任期満了に伴う新規選出 令和7年4月1日(7)

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入して

(例) 令和7年度に報告済の内容 → (7)

令和8年度に報告する内容 → (8)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、別ファイルにて提出してください。
- 様式は、令和3年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和8年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合にそれらのコースや専攻単位でも記載したものを、別途ご連絡ください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
文学部 歴史文化学科 学士（文学）	文学関係	4年	60人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	240人	-	

- (注) 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の2））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。）

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		春季入学以外の学期区分について	収容定員充足率	収容定員充足率（控除後）	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 () []	人 () []	60 () []	人 () []	60 () []	人 () []	60 () []	人 () []	60 () []	人 () []	60 () []	人 () []	-			
志願者数	() []	() []	528 []	() []	536 []	() []	458 []	() []	495 []	() []	677 []	() []	春季入学以外の入学時期と入学定員内訳			
受験者数	() []	() []	515 []	() []	518 []	() []	450 []	() []	485 []	() []	661 []	() []		1.20 倍	1.17 倍	
合格者数	() []	() []	125 []	() []	149 []	() []	139 []	() []	120 []	() []	123 []	() []	-			
B 入学者数	() []	() []	71 []	() []	74 []	() []	72 []	() []	69 []	() []	72 []	() []				
入学定員超過率 B/A	-		1.18		1.23		1.20		1.15		1.20					

- (注) 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- 転入学生は記入しないでください。
- []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳（予定を含む）を記載してください。（春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。）
- 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和9年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- 「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
- 「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」JAC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次			71 [-] (-)	- [-] (-)	73 [-] (-)	- [-] (-)	70 [2] (-)	- [-] (-)	69 [-] (-)	- [-] (-)	72 [-] (-)	- [-] (-)	
2 年次					69 [-] (-)	- [-] (-)	75 [-] (3)	- [-] (-)	67 [2] (1)	- [-] (-)	80 [-] (8)	- [-] (-)	
3 年次							65 [-] (-)	- [-] (-)	74 [-] (-)	- [-] (-)	58 [2] (-)	- [-] (-)	
4 年次									62 [-] (-)	- [-] (-)	80 [-] (7)	- [-] (-)	
計	- [-] (-)		71 [-] (-)		142 [-] (-)		210 [2] (3)		272 [2] (1)		290 [2] (15)		

(注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ []内には、**留学生の状況**について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ ()内には、**留年者の状況**について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和3年度	人	人	令和3年度	人	人	
令和4年度	71 人	0 人	令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
令和5年度	142 人	3 人	令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	2 人	0 人	他の教育機関への入学(2人)
			令和5年度	1 人	0 人	他の教育機関への入学(1人)
令和6年度	210 人	4 人	令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	1 人	0 人	他の教育機関への入学(1人)
			令和5年度	1 人	0 人	家庭の事情(1人)
			令和6年度	2 人	0 人	除籍(2人)
令和7年度	272 人	7 人	令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	3 人	0 人	修学意欲低下(1人)、他の教育機関への入学(1人)、除籍(1人)、
			令和5年度	1 人	0 人	就職(1人)
			令和6年度	3 人	0 人	他の教育機関への入学(1人)、学生個人の心身に関する事情(1人)、その他(1人)
			令和7年度	0 人	0 人	
令和8年度	290 人	0 人	令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	- 人	- 人	
			令和7年度	- 人	- 人	
			令和8年度	0 人	0 人	
合計		14 人		14 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
 ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
 ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例) ・修学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{71} = \boxed{0} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{3}{145} = \boxed{2.06} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{4}{214} = \boxed{1.86} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{7}{279} = \boxed{2.5} \%$$

【令和8年度】

$$\frac{\text{令和8年度の退学者数(a)}}{\text{令和8年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{290} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

科目	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
学科 共通科目	歴史文化概論	1後	2			1					
	日本史概論	1前	2								1
	アジア史概論	1後	2								1
	西洋史概論	1前	2			1					
	古文書学入門① (古代・中世)	2前	2								1
	古文書学入門② (近世)	2後	2								1
	地理学概説	1・2前	2					1			
	地誌学概説	1・2後	2					1			
	社会学概説	1・2後	2								1
	政治学概説	1・2前	2								1
	経済学概説	1・2後	2								1
	哲学概説	1・2前	2								1
	倫理学概説	1・2後	2								1
	小計(13科目)	-									
ゼミナール	プレゼミ (日本史・古代～近世)	2前	2			1					
	プレゼミ (日本史・近現代)	2後	2					1			
	プレゼミ (欧米史)	2前	2			1					
	プレゼミ (アジア史)	2後	2			1					
	プレゼミ (思想文化史)	2前	2					1			
	プレゼミ (芸能文化史)	2後	2			1					
	ゼミナール I A	3前	2			4		2			
	ゼミナール I B	3後	2			4		2			
	ゼミナール II A	4前	2			4		2			
	ゼミナール II B	4後	2			4		2			
	卒業研究	4通	6			4		2			
小計(11科目)	-										
専門科目	日本社会史 (明治大正社会史)	2・3前	2					1			
	日本文化史 (昭和和文化史)	2・3後	2					1			
	日本仏教史① (古代仏教史)	2・3前	2			1					
	日本仏教史② (中世仏教史)	2・3後	2			1					
	九段学	2・3前	2					1			
	江戸東京史	2・3後	2								1
	歴史文化フィールドワーク	2・3休	2					1			
	比較文学・文化論③ A (中国文化史)	2・3前	2			1					1
	比較文学・文化論③ B (中国文化史)	2・3後	2			1					1
	文化交流史	2・3前	2			1					
	日本漢文学史 A	2・3前	2								1
	日本漢文学史 B	2・3後	2								1
	芸能・演劇史①	2・3前	2			1					1
	芸能・演劇史②	2・3後	2			1					1
	芸能・演劇史③	2・3前	2								1
	芸能・演劇史④	2・3後	2								1
	日本思想史	2・3前	2								1
	アジア思想史	2・3後	2								1
	日本史通史講義① (古代～近世)	2・3前	2								1
	日本史通史講義② (近現代)	2・3後	2					1			1
	考古学概論	2・3前	2								1
	日本史特講①	2・3前	2								1
	日本史特講②	2・3後	2								1
	日本史特講③	2・3前	2			1					1
	日本史特講④	2・3後	2								1
	海外社会事情 I (韓国) A	2・3前	2								1
	海外社会事情 I (韓国) B	2・3後	2								1
海外社会事情 II (中国) A	2・3前	2								1	
海外社会事情 II (中国) B	2・3後	2								1	
東アジア史学講義①	2・3前	2			1					1	
東アジア史学講義②	2・3後	2			1					1	

科目	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
学科 共通科目	歴史文化概論	1後	2						1		
	日本史概論	1前	2								1
	アジア史概論	1後	2								1
	西洋史概論	1前	2					1			
	古文書学入門① (古代・中世)	2前	2								1
	古文書学入門② (近世)	2後	2								1
	地理学概説	1・2前	2						1		
	地誌学概説	1・2後	2						1		
	社会学概説	1・2後	2								1
	政治学概説	1・2前	2								1
	経済学概説	1・2後	2								1
	哲学概説	1・2前	2								1
	倫理学概説	1・2後	2								1
	小計(13科目)	-									
ゼミナール	プレゼミ (日本史・古代～近世)	2後	2			1					
	プレゼミ (日本史・近現代)	2前	2					1	1		
	プレゼミ (欧米史)	2前	2			1					
	プレゼミ (アジア史)	2後	2			1					
	プレゼミ (思想文化史)	2前	2						1		
	プレゼミ (芸能文化史)	2後	2			1					
	ゼミナール I A	3前	2			4		1	2		
	ゼミナール I B	3後	2			4		1	2		
	ゼミナール II A	4前	2			4		1	2		
	ゼミナール II B	4後	2			4		1	2		
	卒業研究	4通	6			4		1	2		
小計(11科目)	-										
専門科目	日本社会史 (明治大正社会史)	2・3前	2					1			
	日本文化史 (昭和和文化史)	2・3後	2					1			
	日本仏教史① (古代仏教史)	2・3前	2			1					
	日本仏教史② (中世仏教史)	2・3後	2			1					
	九段学	2・3前	2					1			
	江戸東京史	2・3後	2								1
	歴史文化フィールドワーク	2・3休	2					1			
	比較文学・文化論③ A (中国文化史)	2・3前	2			1					1
	比較文学・文化論③ B (中国文化史)	2・3後	2			1					1
	文化交流史	2・3前	2			1					
	日本漢文学史 A	2・3前	2								1
	日本漢文学史 B	2・3後	2								1
	芸能・演劇史①	2・3前	2			1					1
	芸能・演劇史② (未開講)	2・3後	2					1			1
	芸能・演劇史③	2・3前	2								1
	芸能・演劇史④	2・3後	2								1
	日本思想史	2・3前	2								1
	アジア思想史	2・3後	2								1
	日本史通史講義① (古代～近世)	2・3前	2								1
	日本史通史講義② (近現代)	2・3後	2						1		1
	考古学概論	2・3前	2								1
	日本史特講①	2・3前	2								1
	日本史特講②	2・3後	2								1
	日本史特講③ (未開講)	2・3前	2						1		1
	日本史特講④	2・3後	2								1
	海外社会事情 I (韓国) A (未開講)	2・3前	2								1
	海外社会事情 I (韓国) B	2・3後	2								1
海外社会事情 II (中国) A	2・3前	2								1	
海外社会事情 II (中国) B (未開講)	2・3後	2								1	
東アジア史学講義①	2・3前	2			1					1	
東アジア史学講義②	2・3後	2			1					1	

科目	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科 共通科目	歴史文化概論	1前	2			1						
	日本史概論	1前	2				1					
	アジア史概論	1後	2									1
	西洋史概論	1後	2			1						
	古文書学入門①(古代・中世)	2前	2									1
	古文書学入門②(近世)	2後	2									1
	地理学概説	1・2前	2					1				
	地誌学概説	1・2後	2					1				
	社会学概説	1・2後	2					1				
	政治学概説	1・2前	2									1
	経済学概説	1・2後	2									1
	哲学概説	1・2前	2									1
	倫理学概説	1・2後	2									1
小計(13科目)	-											
ゼミナール	プレゼミ(日本史・古代～近世)	2前	2			1						
	プレゼミ(日本史・近現代)	2後	2					1				
	プレゼミ(欧米史)	2前	2			1						
	プレゼミ(アジア史)	2後	2			1						
	プレゼミ(思想文化史)	2前	2					1				
	プレゼミ(芸能文化史)	2後	2			1						
	ゼミナールⅠA	3前	2			4	1	1				
	ゼミナールⅠB	3後	2			4	1	1				
	ゼミナールⅡA	4前	2			4	1	1				
	ゼミナールⅡB	4後	2			4	1	1				
	卒業研究	4通	6			4	1	1				
小計(11科目)	-											
専門科目	日本社会史(明治大正社会史)	2・3前	2					1				
	日本文化史(昭和和文化史)	2・3後	2					1				
	日本仏教史①(古代仏教史)	2・3前	2			1						
	日本仏教史②(中世仏教史)	2・3後	2			1						
	九段学	2・3前	2					1				
	江戸東京史	2・3後	2									1
	歴史文化フィールドワーク	2・3休	2					1				
	比較文学・文化論③A(中国文化史)	2・3前	2			1						
	比較文学・文化論③B(中国文化史)	2・3後	2			1						
	文化交流史	2・3前	2			1						
	日本漢文学史A	2・3前	2									1
	日本漢文学史B	2・3後	2									1
	芸能・演劇史①	2・3前	2			1						
	芸能・演劇史②	2・3後	2			1						
	芸能・演劇史③	2・3前	2									1
	芸能・演劇史④	2・3後	2									1
	日本思想史	2・3前	2									1
	アジア思想史	2・3後	2									1
	日本史通史講義①(古代～近世)	2・3前	2									1
	日本史通史講義②(近現代)	2・3後	2					1				
	考古学概論	2・3前	2									1
	日本史特講①(未開講)	2・3前	2									1
	日本史特講②	2・3後	2									1
	日本史特講③(未開講)	2・3前	2			1						
	日本史特講④(未開講)	2・3後	2									1
	海外社会事情Ⅰ(韓国)A(未開講)	2・3前	2									1
	海外社会事情Ⅰ(韓国)B	2・3後	2									1
海外社会事情Ⅱ(中国)A(未開講)	2・3前	2									1	
海外社会事情Ⅱ(中国)B	2・3後	2									1	
東アジア史学講義①(未開講)	2・3前	2			1							
東アジア史学講義②(未開講)	2・3後	2			1							

科目	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科 共通科目	歴史文化概論	1前	2			1						
	日本史概論	1前	2				1					
	アジア史概論	1後	2									1
	西洋史概論	1後	2			1						
	古文書学入門①(古代・中世)	2前	2									1
	古文書学入門②(近世)	2後	2									1
	地理学概説	1・2前	2						1			
	地誌学概説	1・2後	2						1			
	社会学概説	1・2後	2						1			
	政治学概説	1・2前	2									1
	経済学概説	1・2後	2									1
	哲学概説	1・2前	2									1
	倫理学概説	1・2後	2									1
小計(13科目)	-											
ゼミナール	プレゼミ(日本史・古代～近世)	2前	2			1						
	プレゼミ(日本史・近現代)	2後	2					1				
	プレゼミ(欧米史)	2前	2			1						
	プレゼミ(アジア史)	2後	2			1						
	プレゼミ(思想文化史)	2前	2					1				
	プレゼミ(芸能文化史)	2後	2			1						
	ゼミナールⅠA	3前	2			4	1	1				
	ゼミナールⅠB	3後	2			4	1	1				
	ゼミナールⅡA	4前	2			4	1	1				
	ゼミナールⅡB	4後	2			4	1	1				
	卒業研究	4通	6			4	1	1				
小計(11科目)	-											
専門科目	日本社会史(明治大正社会史)	2・3前	2					1				
	日本文化史(昭和和文化史)	2・3後	2					1				
	日本仏教史①(古代仏教史)	2・3前	2			1						
	日本仏教史②(中世仏教史)	2・3後	2			1						
	九段学	2・3前	2					1				
	江戸東京史	2・3後	2									1
	歴史文化フィールドワーク	2・3休	2					1				
	比較文学・文化論③A(中国文化史)	2・3前	2			1						
	比較文学・文化論③B(中国文化史)	2・3後	2			1						
	文化交流史	2・3前	2			1						
	日本漢文学史A	2・3前	2									1
	日本漢文学史B	2・3後	2									1
	芸能・演劇史①	2・3前	2			1						
	芸能・演劇史②	2・3後	2			1						
	芸能・演劇史③	2・3前	2									1
	芸能・演劇史④	2・3後	2									1
	日本思想史	2・3前	2									1
	アジア思想史	2・3後	2									1
	日本史通史講義①(古代～近世)	2・3前	2									1
	日本史通史講義②(近現代)	2・3後	2						1			
	考古学概論	2・3前	2									1
	日本史特講①	2・3前	2									1
	日本史特講②	2・3後	2									1
	日本史特講③	2・3前	2			1						
	日本史特講④	2・3後	2									1
	海外社会事情Ⅰ(韓国)A	2・3前	2									1
	海外社会事情Ⅰ(韓国)B	2・3後	2									1
海外社会事情Ⅱ(中国)A	2・3前	2									1	
海外社会事情Ⅱ(中国)B	2・3後	2									1	
東アジア史学講義①	2・3前	2			1							
東アジア史学講義②	2・3後	2			1							

卒業要件及び履修方法

二松学舎共通科目から22単位、学部共通科目から10単位、学科共通科目から18単位、専門科目から54単位、他学科他専攻科目から20単位以上を修得し、124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限:40単位(年間))
 なお、学部共通科目のうち人文学とビジネスデザイン、人文学と教育、人文学とコミュニケーションから4単位を選択必修とする。学科共通科目のうち古文書学入門①、古文書学入門②、地理学概説、地誌学概説、社会学概説、政治学概説、経済学概説、哲学概説、倫理学概説のうち10単位を選択必修とする。専門科目のうち専門科目Ⅰの科目から18単位、専門科目Ⅱの科目から18単位を選択必修とする。専門科目には、プレゼミ(4単位選択必修)、ゼミナールⅠ、Ⅱ(各4単位必修)、卒業研究(6単位必修)を含む。

卒業要件及び履修方法

二松学舎共通科目から22単位、学部共通科目から10単位、学科共通科目から18単位、専門科目から54単位、他学科他専攻科目から20単位以上を修得し、124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限:40単位(年間))
 なお、学部共通科目のうち人文学とビジネスデザイン、人文学と教育、人文学とコミュニケーションから4単位を選択必修とする。学科共通科目のうち古文書学入門①、古文書学入門②、地理学概説、地誌学概説、社会学概説、政治学概説、経済学概説、哲学概説、倫理学概説のうち10単位を選択必修とする。専門科目のうち専門科目Ⅰの科目から18単位、専門科目Ⅱの科目から18単位を選択必修とする。専門科目には、プレゼミ(4単位選択必修)、ゼミナールⅠ、Ⅱ(各4単位必修)、卒業研究(6単位必修)を含む。

(注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
- ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。
その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。
新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
(例:記載順)【認可時又は届出時】→【令和7年度】(新)→【令和6年度】(新)→【令和5年度】→【令和4年度】→【令和7年度】(旧)→【令和6年度】(旧)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・基礎ゼミナールについて、学生数に合わせて専任教員の配置を6名6クラスから2名3クラスに変更
- ・情報科学、プログラミング入門、情報処理アドバンス、データベース演習等の情報科目について、難易度等を考慮し2年次以降の配当科目に変更
- ・キャリアデザインについて、教員の担当科目の調整により兼任教員2名2クラスから1名2クラスに変更
- ・心理学、総合英語Ⅳ、フランス語①、中国語①、特別支援教育概論、教育原理、教育史について、他学科生も含め受講者数が多く見込まれるため、教員を増員
- ・総合英語(文)については、教員1名が辞任したため、1名減、ただしクラス数は変更せず
- ・民俗学、欧米文化史、環境科学、宇宙科学、地理学、基礎数学、歴史文化概論、西洋史概論について、時間割編成の都合上、開講学期を変更
- ・2学科合同で行う科目である文学入門について、ペアの学科を国文学科から学科規模の小さい中国文学科へ変更したため、教員の配置数も変更

【令和5年度】

- ・基礎ゼミナールについて、他の担当授業科目の関係で専任教員の配置を2名3クラスから3名3クラスに変更
- ・文学入門については、各学科から担当者を配属する方式に変更したため、教員の配置数も変更
- ・教育職員免許法施行規則の改正(2021年8月4日)に伴い、「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」に係る授業科目名「教育方法・技術論」を「教育方法・技術論(ICT活用含む)」に変更
- ・総合英語ⅣA Bについて、受講者数の調整により担当者数を4名から3名に変更

【令和6年度】

- ・ITリテラシー①については、担当者の都合により教員2名4クラスから4名4クラスに変更
- ・日本国憲法、哲学、心理学については、開講学期を増加
- ・総合英語ⅠA及びBについては、担当者の都合により教員2名3クラスから3名3クラスに変更
- ・総合英語(文)A及びBについては、担当者の都合により教員9名15クラスから7名15クラスに変更
- ・ドイツ語①A及びBについては、担当者の都合により教員1名4クラスから2名4クラスに変更
- ・フランス語①A及びBについては、担当者の都合により教員2名4クラスから3名4クラスに変更
- ・韓国語①A及びBについては、担当者の都合により教員2名4クラスから4名4クラスに変更
- ・文学入門については、毎年度担当教員を変更しているため専任・兼任の人数も変更
- ・プレゼミ(日本史・古代～近世)、プレゼミ(日本史・近代史)、日本社会史(明治大正社会史)、自然地理学講義、日本史料研究、江戸東京文化研究、欧米文化史研究、アジア文化史研究、中国思想史特殊研究、美術史特殊研究、美術史特殊研究、教育法規、図書館サービス概論、情報サービス論、図書館情報資源概論については、時間割編成の関係で開講学期を変更
- ・日本社会史(明治大正社会史)については、他の担当授業科目の関係で、専任から兼任に変更
- ・比較文学・文化論③A及びBについては、他の担当授業科目の関係で、専任から兼任に変更
- ・教育課程・教育方法論については、担当者の都合により教員2名2クラスから1名2クラスに変更
- ・社会科指導法A及びBについては、担当者の都合により教員1名2クラスから2名2クラスに変更
- ・今年度開講の社会・地理歴史科教育法A及びBについては、1クラス増で実施、教育実践研究については実情に合わせて1クラス減で実施

【令和7年度】

- ・専任教員の開講科目の調整により、基礎ゼミナール担当教員の配置の変更。
- ・受講希望者増加により、「ITリテラシー①」のクラスを秋学期に追加開講。それに伴い担当者1名増。
- ・受講希望者増加により、「日本史」を1クラス増。それに伴い担当者1名増。
- ・受講希望者増加により、「東洋史」を1クラス増。それに伴い担当者1名増。
- ・受講希望者増加により、「情報システム概論」の開講学期を増加。
- ・新規講師採用により、「歴史文化概論」「日本史特講③」及び「日本近現代史研究」の担当者を変更。「ゼミナールⅠA・B」を開講。
- ・受講希望者増加により、「プレゼミ(日本史・近現代)」を1クラス増。それに伴い担当者1名増。
- ・「日本社会史(明治大正社会史)」について、兼任から設置時予定者の専任教員へ変更。
- ・昨年度未開講科目を開講するため、「芸能・演劇史①」を兼任で開講。
- ・受講希望者増加により、「図書館サービス概論」を1クラス増。それに伴い担当者1名増。

【令和8年度】

- ・専任教員の開講科目の調整により、基礎ゼミナール担当教員の配置の変更。
- ・「データサイエンス入門」について、再履修者クラス増等により、担当者2名増。
- ・受講希望者増加により、「民俗学」を秋学期に追加開講。それに伴い担当者1名増。
- ・受講希望者増加により、「ジェンダー論」を1クラス増。それに伴い担当者1名増。
- ・「総合英語Ⅰ～Ⅳ」について、それぞれ1クラス増。それに伴い担当者各1名増。
- ・「漢学と文章表現」について、担当者の都合により4名4クラスから2名4クラスに変更。
- ・「人文学とコミュニケーション」について、担当者の都合により2名2クラスから1名2クラスに変更。
- ・前年度新規講師採用により「ゼミナールⅡA・B」を開講。
- ・新規兼任教職教員採用により、「教育実習」「教職実践演習」等は当該学科のみのクラスを設置。

- (注)・2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
21 科目	193 科目	50 科目	264 科目	21 科目 [0]	193 科目 [0]	50 科目 [0]	264 科目 [0]	

- (注)・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	学校ボランティア論	2	1・2年次	一般	選択	時間割編成上の理由、次年度開講予定
2	西洋史	2	1・2年次	一般	選択	時間割編成上の理由、次年度開講予定
3	環境科学	2	1・2年次	一般	選択	カリキュラムポリシーに照らし科目廃止を検討中。
4	宇宙科学	2	1・2年次	一般	選択	カリキュラムポリシーに照らし科目廃止を検討中。
5	地球環境論	2	1・2年次	一般	選択	時間割編成上の理由、次年度開講予定
6	中国文学	2	1・2年次	一般	選択	時間割編成上の理由、次年度開講予定
7	日本仏教史①	2	2・3年次	専門	選択	時間割編成上の理由、次年度開講予定
8	芸能・演劇史②	2	2・3年次	専門	選択	時間割編成上の理由、次年度開講予定
9	日本史特講③	2	2・3年次	専門	選択	時間割編成上の理由、次年度開講予定
10	海外社会事情ⅠA	2	2・3年次	専門	選択	時間割編成上の理由、同内容を秋学期のみ実施
11	海外社会事情ⅡB	2	2・3年次	専門	選択	時間割編成上の理由、同内容を春学期のみ実施
12	日本中世史研究	2	3・4年次	専門	選択	時間割編成上の理由、次年度開講予定
13	芸能・演劇研究③A	2	3・4年次	専門	選択	時間割編成上の理由、次年度開講予定
14	芸能・演劇研究③B	2	3・4年次	専門	選択	時間割編成上の理由、次年度開講予定
15	芸能・演劇特殊研究②B	2	3・4年次	専門	選択	時間割編成上の理由、次年度開講予定

(注)・配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。

なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						該当なし
3						該当なし

(注)・設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。

なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

1～6の未開講科目はすべて総合教養科目であり選択科目で、当該区分の選択科目数は余裕をもって開講しているため、卒業要件に関する単位充足については他科目履修で代替は可能。
7～9及び12～15の未開講科目については選択科目であり当該区分の選択科目数は余裕をもって開講しているため、他科目または次年度履修で代替は可能。10・11の未開講科目については、同内容を秋学期で実施するため影響はないと思われる。

時間割や教員の都合により今年度未開講となった科目については、次年度開講予定。学生には教育サポートシステム（LMS）等で周知。

なお、履修相談等で学生から未開講科目の受講希望があった場合は、当該科目分野の学修ができるよう履修科目のアドバイスを行っている。

(注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{15}{264} = \boxed{5.68} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考					
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	(変更箇所)令和7年3 月、教育環境の更なる 充実のための取得 259.61㎡増加(7) (共用)附属高等学 校、附属柏中学・高等 学校(収容定員)900 名、1,146名 (借用面積・期間) 2,733㎡、2年間					
	校舎敷地	3,541.86㎡	3,801.47㎡	18,145㎡	0㎡		21,686.66㎡	21,946.47㎡			
	運動場用地		0㎡	105,337㎡	0㎡			105,337㎡			
	小 計	3,541.86㎡	3,801.47㎡	123,482㎡	0㎡		127,023.86㎡	127,283.47㎡			
	そ の 他		0㎡	0㎡	0㎡			0㎡			
	合 計	3,541.86㎡	3,801.47㎡	123,482㎡	0㎡		127,023.86㎡	127,283.47㎡			
(2) 校 舎	専 用	41,810.91㎡	0㎡	0㎡	0㎡	41,810.91㎡					
		(41,810.91㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(41,810.91㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	63 66室	演 習 室	22 24室	実験実習室	7室	情報処理学習施設	2-4室	語学学習施設	2室	校舎一部改修のため (8)
					(補助職員 0人)		(補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数			令和7年4月 専任講師1名を新規 採用のため(7)				
	文学部歴史文化学科			7 6 室							
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	年度購入計画に従って購入(8)			
	歴史文化学科	917 [45] (965 767 525 [48 44 28])	8 [0] (8 [0])	0 [0] (0 [0])	15 (23 19)	0 (0)	0 (0)				
	計	917 [45] (965 767 525 [48 44 28])	8 [0] (8 [0])	0 [0] (0 [0])	15 (23 19)	0 (0)	0 (0)				
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		棚板増設のため(5)					
		3,574.84㎡	480席	377,354冊 376,302冊							
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要									
		2,168.82㎡	武道館								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書購入費はR3実績値を記載(4) 図書購入費には電子書籍購入費を含む 設備購入費はR3実績値を記載(4) R8入学者より学費値上げのため(8)		
		教員1人当り研究費等	450千円	450千円	図書購入費	742千円	1,380千円	1,380千円			
	共同研究費等	840千円	1,155千円	設備購入費	2,318千円	1,420千円	1,420千円				
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		1,340千円 1,296千円	1,046千円	1,046千円	1,046千円	千円	千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等									

(注)・設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。

(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(8)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	二松学舎大学										収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	4
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考			
	年	人	年次人 3年次30	人		倍	倍	年度	年度					
文学部	4	440		1820	-	1.15	1.12	-	昭和24	-				
国文学科	4	240	0	960	学士(文学)	1.22	1.19	-	昭和24	東京都千代田区三番町6-16				
国際日本・中国学科	4	90	0	360	学士(文学)	1.06	1.03	-	昭和24	同上				
都市文化デザイン学科	4	50	3年次30	260	学士(文学)	0.94	-	-	平成29	同上				
歴史文化学科	4	60	0	240	学士(文学)	1.20	1.17	令和4	令和4	同上				
国際政治経済学部	4	240	0	960	-	1.18	1.15	-	平成3	-				
国際政治経済学科	4	160	0	640	学士(国際政治経済学)	1.15	1.11	-	平成3	千葉県柏市大井2590				
国際経営学科	4	80	0	320	学士(経営学)	1.25	1.22	-	平成30	同上				
大学全体	4	680	3年次30	2780	-	-	-	-	-	-				

- (注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
- ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。
 - ・学部/学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和9年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
 - ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。
 詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和3年)	二以上の校地において教育を行うことから、学生及び教員の教育研究等に支障のないよう留意すること。また、学生の課外活動等にも配慮すること。	【認可】 遵守事項 教育研究活動において、校地間の移動を極力抑えるため、柏校地の授業は曜日を絞って開講している。そのため、学生にとっては、他の授業の履修に支障はなく、教員にとっては研究時間の確保や各種委員会等の管理運営業務にも支障はない。両校地にはそれぞれ図書館を開館しており、学習環境が整備されている。また、課外活動を多く実施している九段校地への移動も考慮して、柏校地では4時間までの開講としている。(4) (5) (6) (7) (8)	履行中 今後においても現行と同様の配慮を行っていく予定。(4) (5) (6) (7) (8)
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和4年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和5年度)	・ 入学者選抜の適切な実施等を通じ、収容定員超過の改善に努めること。	【AC】 指摘事項 (改善) 令和5年度はコロナ禍の影響から入学者数が大きく変動する中、入学者選抜の適切な実施等を通じ、収容定員超過の改善に務めた。(6)	履行中 入学者手続き状況分析の精度向上を図り、令和6年度入学定員超過率は、前年に比べ0.03倍改善している。今後も足許の入学者動向の予測精度向上に努め、収容定員超過の改善に務める方針。(6)
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和6年度)	・ 入学者選抜の適切な実施等を通じ、収容定員超過の改善に努めること。 (文学部歴史文化学科)	【AC】 指摘事項 (改善) 令和6年度は入学者選抜の適切な実施や入学予定者動向の予測精度向上を図り、収容定員のさらなる改善に努めた。(7)	履行中 入学者手続き状況分析の精度向上を図り、令和7年度入学定員超過率は、前年度に比べ0.05倍改善している。今後も足許の入学者動向の予測精度向上に一層努め、収容定員超過の改善に務める方針。(7)
	・ 二松学舎大学の既設学科等(文学部国文学科)の収容定員超過の改善に努めること。	【AC】 指摘事項 (改善) 令和6年度は入学者選抜の適切な実施や入学予定者動向の予測精度向上を図り、収容定員の改善に努めた。(7)	履行中 今後も足元の入学者動向の予測精度向上に努め、収容定員超過の改善に務める方針。(7)
	・ 二松学舎大学の既設学科等(国際政治経済学部国際経営学科)の収容定員超過の改善に努めること。	【AC】 指摘事項 (改善) 令和6年度は入学者選抜の適切な実施や入学予定者動向の予測精度向上を図り、収容定員の改善に努めた。(7)	履行中 今後も足元の入学者動向の予測精度向上に努め、収容定員超過の改善に務める方針。(7)
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和7年度)	・ 入学者選抜の適切な実施等を通じ、収容定員超過の改善に努めること。 (文学部歴史文化学科)	【AC】 指摘事項 (改善) 令和7年度は入学者選抜の適切な実施や入学予定者動向の予測精度向上を図り、収容定員のさらなる改善に努めた。(8)	履行中 令和8年度収容定員超過率は前年度に比べ0.04倍改善している。今後も引き続き足許の入学者動向の予測精度向上に一層努め、収容定員超過の改善に務める方針。(8)
	・ 二松学舎大学の既設学科等(文学部国文学科)の収容定員超過の改善に努めること。	【AC】 指摘事項 (改善) 令和7年度は入学者選抜の適切な実施や入学予定者動向の予測精度向上を図り、収容定員のさらなる改善に努めた。(8)	履行中 令和8年度入学定員超過率は前年度に比べ0.03倍、収容定員超過率は0.01倍改善している。今後も引き続き足許の入学者動向の予測精度向上に一層努め、収容定員超過の改善に務める方針。(8)
	・ 二松学舎大学の既設学科等(国際政治経済学部国際経営学科)の収容定員超過の改善に努めること。	【AC】 指摘事項 (改善) 令和7年度は入学者選抜の適切な実施や入学予定者動向の予測精度向上を図り、収容定員のさらなる改善に努めた。(8)	履行中 令和8年度入学定員超過率は前年度に比べ0.25倍、収容定員超過率は0.02倍改善している。今後も引き続き足許の入学者動向の予測精度向上に一層努め、収容定員超過の改善に務める方針。(8)

(注)・「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和7年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和7年度報告書の記載内容を転記し文末に「（7）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（8）」と記載してください。

【令和7年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和7年度報告書の記載内容を転記し文末に「（7）（8）」と記載してください。

【令和8年度から新たに調査対象となった学科等又は令和7年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（8）」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<文学部 歴史文化学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注)・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では、大学設置基準第11条の2の規定(大学は、当該大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その教員及び事務職員等に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修の機会を設けることその他必要な取組を行う)に基づき、自己点検・評価実施委員会がFD活動の企画・立案及び実施を行っている。自己点検・評価実施委員会は、副学長(議長)1名、学部・研究科から選出された教員6名及び事務職員1名によって構成され、各学部・研究科と緊密な連携を取りつつ、最新の教育情報を取り入れたFD活動を実施している。

また別に、事務職員も含めたSD活動を行うため「SD委員会」を設置している。SD委員会は、理事長が委嘱する教職員(教員2名・職員9名)が委員となり、総務担当常任理事が委員長となる。SD委員会は研修等に関する計画を年度ごとに策定し、計画的にSD活動を実施している。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

令和7年度の自己点検・評価実施委員会は8回開催した(教員の参加率は100%)。FD研修会等の企画・実施をはじめ授業公開(相互授業参観)や授業改善のための各種学生アンケートを計画・実施している。FD研修会については、令和7年度に3回実施した。

令和7年度のSD委員会は2回開催した(各回とも教員の参加率は100%)。職階による階層別の研修に加え教員・職員が共に参加するSD講演会を1回(オンデマンド形式)実施し、教職協働の意義付けと意識の向上を図るSD活動に取り組んだ。

c 委員会の審議事項等

自己点検・評価実施委員会では、本学規程に基づき、次の事項を企画・検討し、学長が行う全学的な意思決定のもとに諸施策を実行している。

- (1) 自己点検・評価の実施計画の策定、その実施及び調整
- (2) 自己点検・評価に関する資料収集及び啓発活動等
- (3) 自己点検・評価項目について、各個別項目点検委員会から提出された報告書の集約及び全体の報告書の作成
- (4) FD活動の企画・立案及び実施
- (5) FD活動に関する情報収集及び啓発
- (6) 授業アンケート及び大学の諸制度等に関するアンケート等の実施とFD活動への活用
- (7) 学部・研究科等のFD活動のサポート
- (8) その他必要と認められた事項

S D委員会では、本学校法人規程に基づき、次の事項を企画・検討するとともに、諸施策を実行している。

- (1)学校法人二松学舎全体のS D計画の統括・管理
- (2)研修の年次計画・プログラムの検討及び実施に関する事項
- (3)外部研修受講者、外部機関への派遣者の選考
- (4)研修報告会の実施
- (5)第9条による補助対象者の審査・決定
- (6)その他S Dに関する事項

② 実施状況

a 実施内容

自己点検・評価実施委員会及びS D委員会が令和7年度において行った主な施策は次のとおりである。文学部 歴史文化学科に所属する教員についても、こうした「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」を行う組織に加わり、同様の活動が展開されることとしている。

- ・ 学生による授業アンケートと集計結果の教員（非常勤を含む）還元及びコメントシート分析
- ・ 学生満足度調査の実施と分析結果及び提案事項の聴取・検証
- ・ F D活動の企画・実施及びフォローアップ、促進
- ・ 情報公開（F Dニュースレター及びニュース I Rの発行等）
- ・ 教職員向けS D講演会「教育と経営に関する研修会」の開催
- ・ S Dニュースの配信

b 実施方法

<授業改善のためのアンケート>

一部科目を除く全授業科目（学部・院）について、「学生による授業アンケート」を春学期・秋学期それぞれ実施している。回答内容については、授業ごとに個別に集計・集約のうえ担当教員（専任・非常勤）に配付している。同時に、担当教員には、当該アンケート結果を受けた所感と改善に向けての取組みを記したコメントシートの提出を求め、学生のアンケート結果や声と向き合う機会を設けている。担当教員の所感や改善に向けての取組みについては、自己点検・評価実施委員会での点検・検証や大学運営会議での検討に付し、授業改善への組織的な取組みに繋げている。

<学生満足度調査>

毎年度（秋学期試験期間直前）、全学部生を対象に、「学生の実態・満足度調査」を実施している。調査においては「学修時間（課程・課外）」、「能力や知識の変化に関する自己評価」「教育内容や設備・支援に関する満足度」などの情報を収集し、担当部署である大学改革・I R推進課はそれを分析し、改善に向けた提言報告を行う。報告内容は自己点検・評価実施委員会及び大学運営会議において点検・検証するとともに、学長が行う全学的な意思決定により施策の実行に移している。

<F D活動の企画・実行・推進>

令和7年度は、自己点検・評価実施委員会によるF D講演会を3回実施した。

<情報公開>

本学のF D活動やその成果について、広く学内外への周知を目的として、「F Dニュースレター」と「ニュース I R」を発行している。両発行物は春・秋の各学期に作成し、ホームページに掲載するとともに、教職員には学内メールで、学生には学修サポートシステムを通じて周知している。特に「ニュース I R」については、学生の実態満足度調査結果の分析及び同調査において収集した学生の要望等について、自己点検・評価実施委員会並びに大学運営会議における点検・検証を経て実現した改善事項を紹介し、大学における自己点検・改善への取組みを周知することに重点を置いている。

<教職員向けS D講演会「教育と経営に関する研修会」の開催>

令和7年度もS D委員会が、教職員が共に参加するS D講演会「教育と経営に関する研修会」を計画・実施し、教職協働の更なる意義浸透を図るとともに、意識を高めた。

<SDニュースの配信>

教育関係の基本的な知識及び情報の共有を図るため、大学改革等に係る時事ニュースを学内メールで全教職員に配信し、最新の教育関連情報の周知を行った。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

自己点検・評価実施委員会及びSD委員会における活動状況は上述の①実施体制 b委員会の開催状況の通りでありその具体的内容は②実施状況 b実施方法の通りである。

FD講演会及びSD講演会の実施状況と参加状況は次のとおりである。

<自己点検評価実施委員会によるFD講演会>

令和7年度中1回開催 延参加人数：194名（教員166名、職員28名）

<SD委員会によるSD講演会>

令和7年度中1回開催（オンデマンド形式） 延参加人数：168名（教員73名、職員95名）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

実施結果をふまえて実施された施策は次のとおりである。

- 1) 「学生による授業アンケート」結果を受けた授業担当教員の所感及び改善に向けての取組みを記したコメントシートに記載された内容について、他の教員に情報共有することで授業改善が見込まれる事例について、学内で情報共有。
- 2) 「学生の実態・満足度調査」分析結果を踏まえ、アクティブ・ラーニングを意識した授業運営に係るFDの実施、初年次教育の充実化、学生生活環境の向上等への取組み等を実施。
- 3) FD活動を通じて教育環境の変化や課題の周知、実践事例の共有と普及・促進、教育に関する理論の共有。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・毎年度、各学期終盤に実施（年2回、「学生による授業アンケート」）
- ・原則、各学期の13週目（WEB形式）

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・学生から寄せられた選択回答及び自由記述については、個別授業ごとに集計・集約のうえ担当教員（専任・非常勤）に配付。
- ・各学部・学科ごとの集計結果を二松学舎大学年報で報告。学生にはアンケート結果を図書館で閲覧できるようにしている。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

文学部歴史文化学科は、歴史文化に関する新しい教育研究領域において、日本文化、東洋文化の知識と理解を身につけ、さらに異文化に対する深い理解力を備えた真の国際人を育成し、教育界をはじめ産業界に貢献する人材を養成する目的で設置された。

令和8年度入試においては、歴史文化学科の志願者を含む文学部入試において、入学定員440名に対し2,606名の志願者を集め、歴史文化学科入学定員60名に対し72名の入学者数であった。今年度も定員管理に留意しつつ、入学志願者数を減らさぬよう広報活動を充実して行く。

令和6年度から、3年次からの配当となる科目区分「専門科目2」及び「ゼミナール①」を含むカリキュラムが実施されている。当該学科所属の学生は2年次までの間に「二松学舎共通科目」において大学生としての基本的な教養や社会人としての基礎力を身につけ、「文学部共通科目」や「歴史文化学科共通科目」「専門科目I」で専門科目の基礎知識や研究手法を身につけるという成果を得ている。

学科の専門教育の中心となる科目区分「専門科目2」に配当される専門科目の履修を通して、より高度な知識を修得し、また「ゼミナール①」を履修することで、指導教員の研究とその手法に触れ、卒業研究に向けての自らの研究課題の設定に繋がっていくものと考えている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和10年4月 公表予定

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

・令和9年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価）を受審予定

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和8年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 a で公表「無」の場合》

d 公表しない理由 [()]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。